

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、
花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし
の碑（初代PTA会長盛合聡の揮毫）がある。

あたりまえなことの実践

校長 兼 平 栄 補

「常識」はあたりまえのことだからこそ、それをしっかりと実践・実行できないと社会においては「非常識」となり、同時にその人の社会的・組織的評価や信用に少なからずマイナスな影響を与えることにつながってゆく。

「常識」とは、「約70%以上の人を持つ共通認識のこと」と定義されている。自分では特別に悪いことをしているつもりでなくても、あるいは逸脱しているわけでも、また相手に対して特別に失礼なことを言ったつもりでなくても、70%の人達の共通認識と違っていた場合、その行動は、社会もしくはその環境においては、「非常識」として受け止められてしまうということである。ただし、人道的な問題の場合は絶対的な基準に照らして判断されるから、その限りではない。正しいことは、たとえ1%の人しか実行していなくても、価値基準に照らして、あくまで正義であり、あたりまえなことである。

ところで、次のことは「常識」、つまり、あたりまえのことだろうか？

- ① 朝、出会ったら「おはようございます！」と元気良く挨拶する。
- ② 何か人にしてもらったなら、まずは感謝する。そして、その感謝の意を込めて言葉と態度で「ありがとうございます」とお礼をいう。
- ③ 悪いことやミスをしたなら、自分の言い分を主張する前に、まずはきちんと謝る。
- ④ 知っている人と出会ったら、自分の方から先に「こんにちわ！」と、元気良くあいさつする。

これら4つを「非常識だ」と答える人は100%いないだろうと言えるほどにあたりまえのことだと思う。これらは一例である。まだまだ世間で言うところの「常識」はたくさんある。では、そんなあたりまえの常識を、「すべてしっかりと実践できている！」と自信を持って言えるだろうか。毎朝昇降口で生徒諸君を迎えているが、自ら挨拶する生徒は少ない。中には、不機嫌な表情で挨拶すら返さない生徒も居る（不

機嫌ではないかも知れないが、返事がないと不機嫌と感じてしまう）。

ごくごくあたりまえの、しかし自分達が人間として、本当はいちばん大切なはずの「常識」がとても軽視されているように感じる。よくよく考えれば、ごくあたりまえのことなのに、そういった軽い意識で配慮を欠くために、仕事上や人生そのものに大きなダメージを受けてしまいかねない。逆に、これらの「常識」をごく自然に少しばかり意識して、ごくあたりまえのように実践することで、思わぬ“信頼や信用”、そして“人生の成功のキッカケ”を得ることがある。

いつも自分達の隣や周りに、あたりまえのように存在している常識を、今までより少し意識し大切にしていってゆくことで、周りの人達から、より信頼され、そのことによって自分自身が、楽しく気持ちよく、そして生き活きとした日々を送ることができる。

「常識」を弁える力は、人生をサポートする無くてはならない武器であり、味方である。生徒諸君は、あたりまえの常識を、意識して、そして実践できているだろうか。

8月の行事予定

- 3日（月）技能検定3級
（電子機器組立て）
- 17日（月）授業始め式
休み明け試験
- 18日（火）身長体重測定
- 19日（水）進路推薦会議
- 20日（木）頭髪服装検査
定例職員会議
- 23日（日）消防設備士試験

（期日未定）3年進学模試
第2回母親委員会



